

平成 19年 10月 20日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2092400015		
法人名	有限会社 平成		
事業所名	グループホーム道		
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切 161-52 (電話) 0265-86-8171		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年10月15日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】(19年 9月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤17人	非常勤5人 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 325 円
	夕食	325 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (9月 30日 現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	7名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	-
年齢	平均 81.9 歳	最低 64 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平澤医院(内科)
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「道」は、飯島町の北西に位置する高台で、林と果樹園に囲まれた、小鳥のさえずりが聞こえてくる静かな場所にあり、周囲には農家が点在している。施設の建物は木造平屋建ての真新しくゆったりした間取りや共用空間のある施設で、管理者と職員が一体になり「恵まれた自然の中で輪・和・話を大切にし、利用者と共に、地域の中で暮らす生活の場作りを」との理念を基にし、和やかな雰囲気での介護がされており、利用者の表情も明るく安心して日々の送れる住環境の施設として成長しつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は、今回が初回であり、前回の改善課題等はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回が初回の自己評価であり、時間の制約があり全職員で時間をかけ項目ごとに評価検討が出来ず管理者と計画作成担当で評価が実施された。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	平成19年6月地域の代表の協力が得られ運営推進会議の立ち上げにこぎつけられ初会合がされたが、今年度の会合は10月18日開催予定であり具体的な意見交換に至っていないが、検討を要する意見等が出れば全職員で検討会をし施設運営に生かした取り組みをしていく方向である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の苦情・意見の処理簿が準備されている。今年度、家族等からの苦情等の申し出がない。今後要望等の汲み上げへの工夫と、運営への反映に努める意向である。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者・職員の一部が地元の出身であり、付近に友人・知人が多く、開所当初から周辺住民等の訪問があり、野菜・果物の差し入れが多く、自然に地域との連携、交流が広がっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「恵まれた自然の中で輪・和・話を大切に利用者と共に地域の中で暮らせる生活の場作り」を理念とし利用契約書・広告しに掲載文化され、利用者等に説明もされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設の要所、要所に理念を掲示し、職員会等でも説明され理解もされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所依頼付近住民の訪問・野菜や果物の差し入れも多く地元の行事にも参加し交流に努められてる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員ともに、自己評価の意義の理解はされているが、全員で具体的取り組みの暇がなく、管理者と施設長のみで評価記載がされた。	○	自己評価の意義を十分理解し全職員で項目ごとに気づき・検討改善点の発見に努め、具体的な改善への取り組みがされるよう望まれる。

グループホーム道

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地元代表の協力を得て、18年度3月立ち上げられている。利用者やサービスの実際評価への取り組み等について報告や話し合いをし、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議参加者の意見・情報を職員全員に伝え施設運営・利用者介護に反映していくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が機会あるごとに、市の担当者と意見交換し合いサービスの工場に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月々の利用料の請求時に写真を同封したり施設便りに職員を紹介し、家族の来訪時利用者の暮らしぶりや健康状態の報告や意見交換をしている。金銭管理はしていない。	○	施設訪問のしづらい家族のためにも書類の送付のみにとどまらず、利用者の暮らし振りや健康状態等を連絡し家族に安心感を与える努力が今以上に望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に御意見箱を設置し、家族来訪時の意見交換もされているが開所以来苦情・不満の申し出がない。	○	苦情受理の有無に関わらず、苦情相談処理簿の準備と意見・要望の汲み上げへの今以上の努力、できれば家族会の結成への配慮が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ぬ管理者の交代はあったが利用者へのダメージを防ぐ職員の異動・離職を最小限にとどめる配慮がされている。		

グループホーム道

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部外研修への参加推進、旅費支給の配慮がされ研修出席者の事後報告会もされている。	○	新人職員採用時の研修計画や指導項目資料の準備により継続的な指導への努力、および職員全員の職場教養・機会教養による指導に努力されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺の福祉事業者と定期的に勉強会や情報交換会をする交流の機会を持ち、サービスの質を向上させる取り組みもされている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談され、本人が施設見学に来所されたり、試行期間を設ける等納得されてからサービス開始をするよう努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者で食事準備をしながら調理方法や味付けの話をしたり、食事後の団欒時間に苺取りや野菜作りの話で、相互に学び・支えあう気さくな関係が築かれている。		

グループホーム道

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族訪問によるアセスメントや家族来訪時の話し合いから、本人・家族の希望や意向の把握に努め、また日々の生活の中で、利用者の場面、場面での意向を確認し意向に沿った介助に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初のアセスメントを管理者・計画作成担当で検討し暫定的介護計画を作成後、半月または1ヶ月経過後職員会で職員の意見を聞き本計画を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化の把握に努め随時見なおしをすると共に、定期的にカンファレンス実施して定期見なおしもされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は、グループホームの許可施設であり、多機能性施設への移行は今後の課題と考えられている。		

グループホーム道

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と付近の病院との連携もされているが本人の希望により本人の掛かり付け医院への送迎支援もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族にはターミナルケアの方針を定め説明もされているが、家族の意向をその都度確認すると共に、医師との話し合いにも留意し職員全員で対応する努力がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の介護の中で、プライバシーを損ねるような言葉掛けや対応がないよう職員個々で考え、行動されているが、マニュアルの準備や指導の徹底までには至っていない。	○	介護中の利用者のプライバシーの保護についての指導マニュアルの準備と、職員の意識向上への努力が今以上に望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が一日自分のペースで生活できるよう、場面場面で利用者ごとの希望・要望を受け入れ支援に努められている。		

グループホーム道

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者作成の畑の野菜、近隣者差し入れの野菜や果物を利用し、利用者と職員が一緒になって調理味付けをし、皆でにぎやかに食事が楽しまれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴指定日はなく、毎日風呂の準備がされ希望者はゆっくりと時間制限もなく入浴を楽しめるように配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や買い物、洗濯物の後片付け等、出来ることへの参加と散歩・畑の野菜作り等、生活歴での自分の力を伸ばす支援もされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的な行楽のほか、施設周りの散歩買い物への参加等外へ出ることの支援もされており、家族同伴で外食等に出かける利用者もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間防犯のため玄関周りの施錠はするが、昼間帯は常に玄関・ロビー等の出入り口は開放状態で利用者は自由に外に出入りできる状態にされている。		

グループホーム道

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開所以来施設独自の避難訓練がされ、職員への心構えの指導はされている。	○	非常時・災害時の連絡体制表を作成し、宿直職員待機場所等に掲示する他、消火器の設置場所の図化表示、消防署との連携による繰り返しの避難訓練により職員の意識向上を図ることが今以上に望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、管理栄養士の献立表チェックを受けており、食事量・水分量も日々記録され、利用者の健康状態観察がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関回り・廊下今等には季節の生け花や植木鉢が置かれ手作りの折り紙やカレンダーが掛けられ、トイレ・風呂場は綺麗に清掃され生活観や季節感の取り入れ工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、利用者個々に家族から持ち込まれた家族写真・絵・仏壇等思いのこもった品を飾り本人の居心地の良い環境作りがされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。